科目名	衛生行政	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	軽部　裕代
		授業形態	講義		有		
（英）	Health administration	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	木曜日/6・7限：対面

講師紹介	保有資格：歯科医師 略　　歴：大学（歯学部）で公衆衛生並びに社会歯科を学び、歯科医学における法律や、関係諸制度の研究と教育に従事し、豊富な経験を有す。さらに研究を発展させるため大学院に進学し、博士号を取得。現在は、新規歯科材料の開発に向けた毒性研究を行なっている。□
目的	この科目では、歯科医療従事者として必須事項である、衛生行政機構と関係法規の要点を理解することを目的とする。
科目概要	歯科衛生士法と、歯科医療関係法規について学ぶ。
到達目標	歯科衛生士として実務に従事するのに必要な法的知識を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	医歯薬出版株式会社 「保健・医療・福祉の制度」	事前事後学習とその内容	事前学習：教科書の該当部分を読み、講義内容の概要を把握する。 事後学習：練習問題集で授業内容を再確認する
参考図書	オリジナル問題集		
特記事項	練習問題集はオリジナル問題集であるので、学外への持ち出しを禁止する。また、練習問題集は、毎回持参すること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	「法律」とは何か？	講義	「法律」とは何かを学ぶ
2	医療に関係する法律①	講義	行政組織と「地域保健法」について学ぶ
3	医療に関係する法律②	講義	医療関係職種とそれぞれの業務について学ぶ 「医療法」について学ぶ
4	医療に関係する法律③	講義	「歯科衛生士法」について学ぶ
5	医療に関係する法律④	講義	「健康増進法」について学ぶ 「医薬品医療機器等法」について学ぶ
6	医療に関係する法律⑤	講義	その他の関係法規「母子保健法」「学校保健安全法」「労働安全衛生法」「高齢者医療確保法」　「歯科口腔保健法」について学ぶ
7	医療に関係する法律⑥	講義	その他の保健衛生法規「食品衛生法」「感染症法」「予防接種法」「廃棄物処理法」に付いて学ぶ　「国家統計」について学ぶ
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）（国家試験に準じた択一形式）

科目名	社会福祉学	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	軽部 裕代
		授業形態	講義		無		
（英）	social welfere	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	水曜日/6・7限：対面

講師紹介	大学（歯学部）で公衆衛生並びに社会歯科を学び、歯科医学における法律や、関係諸制度の研究と教育に従事し、豊富な経験を有す。さらに研究を発展させるため大学院に進学し、博士号を取得。現在は、新規歯科材料の開発に向けた毒性研究を行なっている。□
目的	高齢化社会に伴い保健医療と福祉の連携の必要性が強調されている。歯科衛生士は、歯科医療と福祉をつなぐエキスパートであるので、社会保険と社会福祉について理解しておくことは重要である。これらの基本理念を学ぶことにより、将来に役立てる。
科目概要	わが国における社会保険制度(年金保険・雇用保険・医療保険・労働者災害補償保険・介護保険)や生活保護制度と社会福祉制度について学ぶ。
到達目標	政府が実施している社会保障制度（社会保険や公的扶助）と、社会福祉の基本的理念と現行制度について学習する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	医歯薬出版株式会社 「保健・医療・福祉の制度」	事前事後学習とその内容	事前学習：教科書の該当部分を読み、講義内容の概要を把握する。 事後学習：練習問題集で授業内容を再確認する
参考図書	オリジナル問題集		
特記事項	練習問題集はオリジナル問題集であるので、学外への持ち出しを禁止する。また、授業時には毎回持参すること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	わが国における社会保障制度	講義	「わが国における社会保障制度」について学ぶ 「生活保護制度」について学ぶ
2	社会保険①	講義	「年金保険制度」・「雇用保険制度」・「労働者災害補償制度」について学ぶ
3	社会保険②	講義	「介護保険制度」について学ぶ 介護保険における歯科衛生士の役割について学ぶ
4	社会保険③	講義	「医療保険制度」について学ぶ 「診療報酬」と「保険診療の流れ」について学ぶ
5	わが国における医療保険制度	講義	「医療保険」の種類とその特徴について学ぶ 「国民医療費」について学ぶ
6	社会福祉①	講義	「社会福祉」とな何か？ 「児童福祉」・「母子福祉」・「高齢者福祉」について学ぶ
7	社会福祉②	講義	「障害者福祉」について学ぶ 「その他の福祉」について学ぶ
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）（国家試験に準じた択一形式）

科目名	臨地・臨床実習Ⅳ	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	小櫃 綾乃
		授業形態	臨地実習		有		
（英）	Clinical Traning Ⅳ	時間数	225	授業回数		開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	5			曜日/時間	月・火・水・金・(土)

講師紹介	中学高等学校英語教諭Ⅰ種取得、訪問介護員2級養成研修課程修了、歯科医院での臨床経験（一般歯科・予防歯科・口腔外科・審美歯科等）、企業健診経験など豊富な実務経験を有す。2014年より歯科衛生士養成校にて専任教員として勤務
目的	医療現場を体験することにより、 ①歯科医療及び歯科保健活動をより深く理解する。②歯科衛生士として必要な専門的な知識・技術を学ぶ。③対象者のニーズに応じたミュニケーション方法を習得する。
科目概要	実際の患者様への対応や処置など能動的な学びを行う。
到達目標	実践を重ね、歯科衛生士に必要な技術と知識を蓄積させ、個々の症例や患者に応じた対応ができるようにする。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　□実技試験　■その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	実習前教育で臨地実習の準備を行いと実習後教育で振り返りを行う。
参考図書			
特記事項	評価および規則の詳細については「臨床実習について」を参照。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習前教育	講義	臨地臨床実習の目的・目標を把握し、自己紹介書の記入、事前訪問など臨地臨床実習に望むための気構え・身構え・心構えを身につける。
2	臨地・臨床実習	臨地実習	各実習施設にて臨地。臨床実習を行う。
3	実習後教育	講義	臨地臨床実習の振り返りを行い、各施設の情報共有を行うことで学びを水平展開する。
4			
5			
6			
7			
8			

科目名	臨地・臨床実習Ⅴ	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	小櫃 綾乃
		授業形態	臨地実習		有		
（英）	Clinical Traning Ⅴ	時間数	180	授業回数		開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	4			曜日/時間	月・火・金・(土)

講師紹介	中学高等学校英語教諭Ⅰ種取得、訪問介護員2級養成研修課程修了、歯科医院での臨床経験（一般歯科・予防歯科・口腔外科・審美歯科等）、企業健診経験など豊富な実務経験を有す。2014年より歯科衛生士養成校にて専任教員として勤務
目的	医療現場を体験することにより、 ①歯科医療及び歯科保健活動をより深く理解する。②歯科衛生士として必要な専門的な知識・技術を学ぶ。③対象者のニーズに応じたミュニケーション方法を習得する。
科目概要	実際の患者様への対応や処置など能動的な学びを行う。
到達目標	指導者の直接指導の下、学内実習で習得した技術を実践し、歯科衛生士としての業務を行う基礎を固め、業務の実際を習熟する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　□実技試験　■その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	実習前教育で臨地実習の準備を行いと実習後教育で振り返りを行う。
参考図書			
特記事項	評価および規則の詳細については「臨床実習について」を参照。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習前教育	臨地実習	臨地臨床実習の目的・目標を把握し、自己紹介書の記入、事前訪問など臨地臨床実習に望むための気構え・身構え・心構えを身につける。
2	臨地・臨床実習	臨地実習	各実習施設にて臨地。臨床実習を行う。
3	実習後教育	臨地実習	臨地臨床実習の振り返りを行い、各施設の情報共有を行うことで学びを水平展開する。
4			
5			
6			
7			
8			

科目名	摂食嚥下機能訓練	年次	3	必修科目	実務経験	科目	田村　文誉
		授業形態	講義		有	責任者	
（英）	Rehabilitation for Feeding and Swallowing Disorders	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	水曜日/6限・7限：対面
講師紹介	田村文誉 昭和大学歯学部卒業後、同学部第三補綴学教室、口腔衛生学を経て米国アラバマ大学歯学部補綴学生体材料学教室留学。帰国後、日本歯科大学附属病院口腔介護・リハビリテーションセンター講師を経て、2013年より口腔リハビリテーション科教授。口腔リハビリテーション多摩クリニックに勤務し、2024年より附属病院口腔リハビリテーション科に勤務し豊富な実務経験を有する。 町田麗子/児玉実穂 日本歯科大学歯学部卒業後、同大学高齢者歯科診療科、口腔介護・リハビリテーションセンター、総合診療科の医員等、豊富な実務経験を有する。口腔リハビリテーション科講師。						
目的	歯科衛生士と摂食嚥下の関わりについて認識を深め、摂食嚥下リハビリテーションの概念やメカニズム、さらには発達、障害の状態を正しく理解したうえで、小児期、成人期、高齢期の摂食嚥下障害の特徴や変化、歯科衛生士の実践についての考え方や訓練法の実際、チームアプローチや連携に必要な関係職種の理解等、摂食嚥下リハビリテーションに関する基礎的な知識や手技を習得する。						
科目概要	主に歯科衛生士として実施する摂食機能療法に係る知識や手技に関して講義を行う。						
到達目標	小児や高齢者に対する摂食機能療法に関わる知識や手技を習得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）						
教科書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション　第2版	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。				
参考図書							
特記事項	特になし						

授　業　計　画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割	講義	リハビリテーションについて理解する 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割を理解する 摂食嚥下障害患者への地域包括ケアシステムとチーム医療を理解する
2	摂食嚥下機能のメカニズム	講義	摂食嚥下機能の解剖・生理を理解する 誤嚥と窒息の違いについて理解する 構音機能を理解する
3	発達期の摂食嚥下障害	講義	摂食嚥下機能の定型的な発達過程について理解する 発達期の摂食嚥下障害の原因を知る
4	成人・高齢期の摂食嚥下障害	講義	摂食嚥下機能の加齢変化を理解する 中途障害による摂食嚥下障害を理解する
5	栄養とリスク管理	講義	医師・歯科医師が行なう摂食嚥下機能の評価を知る 歯科衛生士が行なう摂食嚥下機能の評価方法を理解する
6	摂食嚥下機能の評価	講義	摂食機能訓練（間接訓練・直接訓練）を理解する 適切な食事介助法を理解する
7	摂食機能訓練と食事介助/代償的アプローチ・環境改善的アプローチ	講義	代償的アプローチを理解する 環境改善的アプローチを理解する
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	食支援演習	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	城　明妙
		授業形態	演習		有		
（英）	Nutrition　education Practice	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部　総合コース	単位	2			曜日/時間	木曜日／6・7限：対面
講師紹介	歯科衛生士学校卒業後矯正歯科勤務、行政、メーカーなどを経て現職へ。訪問歯科、介護予防、摂食嚥下、地域歯科保健、企業検診等に携わるなど豊富な実務経験を有する。歯科衛生士が生涯現役で活躍できる仕組みづくりを実施。 訪問歯科口腔ケア、摂食嚥下評価と訓練についての認定制度を設立し認定修了書多数。介護、教育等認定資格を多数取得。□						
目的	口腔機能の問題について学習し、口から食物を摂取する重要性を理解するとともに、歯科衛生士の立場から食支援の方法を講 義・演習・実習を通して習得する。①各ライフステージの身体的特徴を認識し、適切な食事について考える。②各ライフステージにおける対象者の心身の状態に応じた支援方法を実践できる。③摂食嚥下機能の障害状態・離乳期における適切な食形態からなる献立を、心理的影響に配慮して考案する。						
科目概要	口腔機能に必要な支援について理解し、それぞれの機能低下に対する食支援の方法が分かるようになり、適切な食物形態の選択や献立立案、調理が実施できるようになる。また、多職種連携の必要性についての理解を深める。						
到達目標	口腔機能の重要性を知り、現在起きているそれぞれの問題点に寄り添いながら、歯科衛生士としての役割を考えることができるようになる。乳幼児の口腔機能の発達から高齢期に至るまでの口腔機能低下への経過や摂食嚥下障害の発生のメカニズムを理解し対応できるようになる。適切な食物形態について調理や献立立案まで実践できるための演習を行う。歯科衛生士の役割と多職種連携について理解し、適切な情報共有が実施できるようになる。						
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）						
教科書	歯科衛生士のための摂食嚥下ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ(医歯薬出版)	事前事後学習とその内容	教科書を読み事前学習を行っておく				
参考図書							
特記事項	関連する内容の配布資料有り						

授　業　計　画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	健康と食生活の意義	演習	各ライフステージにおける食生活の現状・歯科衛生士による食支援の必要性
2	身体の健康維持に必要な栄養素と低栄養について	演習	身体の健康維持に必要な栄養素とは何か？・栄養素のそれぞれの役割・現代人に不足している栄養素とは？低栄養とは何か？栄養摂取状況の自己分析【演習】自己分析から栄養摂取方法の検証(自己分析を活用し、理想的な食事を考える)【演習含む】
3	食べるために必要な口腔機能とその発達・機能低下・機能障害について	演習	口腔機能の発達、機能低下、機能障害について整理する【演習含む】
4	食に問題を抱える原因とその現状	演習	乳幼児(口腔機能発達不炎症)・成人、高齢者(口腔機能低下症・摂食嚥下障害)【演習含む】
5	食に問題を抱える原因とその支援	演習	【グループワーク】各ライフステージにおける食の問題点を話し合う・歯科衛生士としてどのような支援ができるか考える・多職種との連携をどのように行っていくことが必要か　【グループごとの発表含む】
6	高齢者に対する口腔機能を支援する食事	演習	ユニヴァーサルデザインフードの試食・とろみの調整(炭酸・コーヒー・お茶)・ゼリー粥の調理・歯科衛生士の立場から考える介護食の調理スキルの支援と献立立案・低栄養に対する支援
7	摂食嚥下障害者に対する口腔機能を支援する食事	演習	ソフト食の試食・とろみの調整(炭酸・コーヒー・お茶)・食支援のためのゼリーの調理・歯科衛生士の立場から考える介護食の調理スキルの支援と献立立案・低栄養に対する支援
8	乳児に対する口腔機能を支援する食事 中間テスト	演習	離乳食の試食・離乳食の調理(簡単にできる商品の検証)・歯科衛生士の立場から考える離乳食の調理スキルの支援と献立立案・手づかみ食べの重要性の検証【演習】
9	幼児に対する口腔機能を支援する食事	演習	歯科衛生士の立場から考える離乳食の調理スキルの支援と献立立案【演習】・適切な間食の支援【グループワーク】
10	学童期に対する口腔機能を支援する食事	演習	歯科衛生士の立場から考える学童期の食事支援と献立立案・咀嚼機能を高める食事・早食いや過食に対する支援・適切な間食の支援【グループワーク】
11	思春期に対する口腔機能を支援する食事	演習	歯科衛生士の立場から考える思春期の食事支援と献立立案・咀嚼機能を高める食事・早食いや過食に対する支援・適切な間食に対する支援【グループワーク】
12	成人に対する口腔機能を支援する食事	演習	歯科衛生士の立場から考える成人期の調理スキルの支援と献立立案・咀嚼機能を高める食事・早食いや過食に対する支援・低栄養に対する支援【グループワーク】
13	特別な配慮を要する場合の食支援	演習	栄養素の摂取制限がある疾患と身体状況・疾患や状態別の栄養摂取支援【低タンパク質食・低糖質食等の試食】
14	歯科衛生士としての食支援総まとめ	演習	歯科衛生士が食支援に関わり支援した事例、体験談・「食」の大切さを考える
15	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	インプラントアシスト	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	川上　紗和子
		授業形態	演習		有		
（英）	Oral Implantology Assistance	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	木曜日/6限・7限：対面

講師紹介	東京医科歯科大学 インプラント・口腔再生医学分野にて学位を取得後、同大学病院 インプラント科にて医員として在籍。現在、日本歯科大学附属病院 口腔インプラント診療科助教。多くの症例に携わり、当大学における豊富な実務経験を有する。
目的	さまざまなライフステージにおける高度歯科医療に対応するために、専門的なインプラント治療の補助に関する知識および態度を身につける。
科目概要	インプラント治療について
到達目標	歯科衛生士としてインプラント治療の術式の一部を担うために、また、歯科医師とチームを組み診療を行うにあたり必要な知識、態度を身につける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義の写真撮影および録音などは禁止。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	インプラント治療とは	演習	インプラント治療の基礎知識を理解する。インプラント治療の意義、特徴、インプラントの種類、構造、オッセオインテグレーションを説明できる。
2	インプラント治療における検査、診断および治療計画	演習	インプラント治療の流れを理解する。インプラント治療の適応症、禁忌症を説明できる。
3	インプラント手術の準備と片付け	演習	インプラント器具の滅菌方法、インプラント治療における清潔域、不潔域、消毒の重要性を理解する。インプラント器具の準備、後片付けと保管方法、インプラント用材料の使用目的を説明できる。
4	インプラント手術のアシスタントワーク	演習	手術におけるアシスタントの役割を理解する。手術当日のアシスタントの役割、手順と手術後のアシスタントの役割、患者管理を理解する、
5	インプラント補綴のアシスタントワーク	演習	補綴処置のアシスタントワークを理解する。印象採得から補綴装着までの流れを理解する。
6	インプラント患者のメンテナンス	演習	メンテナンスの重要性を理解する。メンテナンス時の検査項目、プロフェッショナルケアの方法を説明できる。プラークコントロールの重要性、口腔清掃方法と器具の使用方法を指導できる。
7	インプラント総論	演習	インプラント治療の流れ、知識を復習する。
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	歯科補綴学演習	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	大槻　昌幸
		授業形態	演習		有		
（英）	Prosthdontics　Practis	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士科夜間部　審美コース	単位	1			曜日/時間	木曜日/1限：対面

講師紹介	1984年 東京医科歯科大学歯学部 卒業、1988年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科 修了。東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 准教授）1924年2月現在）、日本歯科審美学会 元理事長（2023年6月まで）。東京医科歯科大学病院 むし歯科および先端歯科診療センターで、保存修復治療および歯のホワイトニングなどの審美歯科治療に従事するなど豊富な実務経験を有する。
目的	歯科治療における審美的諸問題を理解し、的確な対応が実践できる。
科目概要	審美補綴治療の概要及び手順、作成機序について知る。
到達目標	歯科治療における審美的諸問題雄理解し、的確な対応ができる。 ① ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ治療の概要及びメインテナンスについて理解する ② 審美的配所がされた各種補綴物の構造について理解する ③ 光学印象採得について実践できる
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	インプラントの基礎知識	演習	・インプラントの特徴を理解できる
2	インプラントにおける解剖学	演習	・各種エックス線写真における解剖を理解できる ・術中術後の偶発症、手術にあたり注意が必要な全身疾患について理解できる
3	インプラント治療の流れ	演習	・インプラントの特徴を理解できる治療の流れを理解できる ・治療の各ステップにおける注意点を理解できる
4	インプラントメンテナンス	演習	・歯科衛生士として行うべきインプラントに対するメンテナンスを理解できる ・患者さんとの関係性の構築について理解できる
5	光学印象採得	演習	・光学印象採得の機序及び手順について理解し、実践できる
6	CAD/CAM	演習	・CAD/CAMを使用した補綴物の作成機序について理解し、補綴物の特徴を反映した歯科保健指導ができる
7	プロビジョナルレストレーション	演習	・プロビジョナルレストレーションの所要性質を理解し、作成できる
8	定期試験		筆記試験

科目名	矯正歯科学演習	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	矢野晋也
		授業形態	演習		有		
（英）	Community Health Activities	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科夜間部 審美コース	単位	1			曜日/時間	木曜日/6限目：対面

講師紹介	大宮SHIN矯正歯科 院長/ 日本矯正歯科学会認定医、さいたま市立植竹中学校　校医 2013年にSHIN矯正歯科開業し、当時はまだ、日本では黎明期であった取り外しができて、目立たないマウスピース型矯正装置（インビザライン）を用いた治療に力を入れ始める。現在は、マウスピース型矯正装置を中心に子供～成人まで多くの症例を手がけ、自分最適化をキャッチとして、機能的・審美的に患者様に最適な矯正治療を提供するなど豊富な実務経験を有する。
目的	審美矯正歯科における現場の実際と、最先端の技術、衛生士としての考えを理解し、診療の現場で活躍できる力を習得する。
科目概要	現場対応力工場のための、審美矯正歯科の業務及び、今後普及が予測される先端技術の紹介。
到達目標	審美矯正の業務を理解することで、即戦力となる力を身につけるとともに、先端技術を知ることで、様々な変化に対応できる柔軟な対応力を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 （矢野）	審美矯正臨床の基礎知識 衛生士としての考え方 初診カウンセリング	演習	患者様が審美矯正に求められるもの 審美矯正におけるGPと矯正専門医院で矯正治療の違い 衛生士としての考え方、矯正歯科医院で得られる事 審美矯正における初診カウンセリング
2 （秋山）	審美矯正を希望する患者様の 検査・診断	演習	精密検査では何を調べるのか シュミレーションを用いたコンサルテーション マウスピース矯正装置（インビザライン）の概要
3 （佐藤）	審美矯正臨床における衛生士の役割	演習	衛生士が担当する業務詳細 矯正臨床における口腔ケア 衛生士としてのキャリアアップ
4 （柳澤）	こどもの審美矯正の実際	演習	筋機能矯正について 混合歯列期におけるマウスピース矯正装置（インビザライン）
5 （村田）	大人の審美矯正の実際	演習	審美ワイヤー矯正（裏側矯正等） マウスピース矯正装置（インビザライン）
6 （秋山）	審美矯正における トラブルシューティング	演習	患者様コンプライアンスの維持 マウスピース矯正装置（インビザライン）におけるリカバリー
7 （矢野）	審美矯正臨床に求められる 院内デジタルワークフロー	演習	治療モニタリング、遠隔診療 先端医院運営システムとは
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	歯科衛生士総合講座	年次	3	必修科目	実務経験	科目責任者	小櫃 綾乃
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Hygienist complete course	時間数	315	授業回数	168	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	21			曜日/時間	月～金　6.7限　対面

講師紹介	中学高等学校英語教諭Ⅰ種取得、訪問介護員2級養成研修課程修了、歯科医院での臨床経験（一般歯科・予防歯科・口腔外科・審美歯科等）、企業健診経験など豊富な実務経験を有す。2014年より歯科衛生士養成校にて専任教員として勤務
目的	歯科衛生士国家試験合格に必要な知識・技術を総合的に習得する。
科目概要	歯科衛生士国家試験合格に必要な知識・技術を総合的に習得する
到達目標	卒業判定試験に合格し、歯科衛生士国家試験に向けて、知識を蓄積させる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　□実技試験　■その他（　　）

教科書	日本医歯薬研修協会「Complete+DH」	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。□
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1～10	人体の構造と機能	講義	解剖学・生理学について応用力をつける
11～20	歯・口腔の構造と機能	講義	口腔解剖学・口腔生理学について応用力をつける
21～30	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	講義	病理学・口腔病理学・微生物学・口腔ぎ生物学・薬理学・歯科薬理学について応用力をつける
31～40	歯・口腔の健康と予防に関わる人間の仕組み	講義	口腔衛生学・公衆衛生学・衛生行政・社会福祉論について応用力をつける
41～50	臨床歯科医学	講義	臨床検査・保存修復学、歯内療法学、歯周治療学、歯科補綴学、口腔外科学、小児歯科学、歯科矯正学、高齢者歯科学、障碍者歯科学について応用力をつける
51～60	歯科予防処置論	講義	歯科予防処置論について応用力をつける
61～70	歯科保健指導論	講義	歯科保健指導論について応用力をつける
71～84	歯科診療補助論	講義	歯科診療補助論について応用力をつける